

企画展

護国寺五百羅漢図展

前期…令和8年10月3日(土)～令和8年10月25日(日)
後期…令和8年10月28日(水)～令和8年11月29日(日)

※展示品がすべて入れ替わります。



会場：3階展示室

時間：午前9時～午後5時 *入館は午後4時半まで

休館日：月曜日・第4火曜日(土・日・祝日は開館。祝日に当たる時は翌平日休館)

入館料：個人100円／団体(20名以上) 1人80円

※中学生以下と身体障害者手帳・愛の手帳・療育手帳・精神障害者保健福祉手帳をお持ちの方及び介助の方1名は無料

すみだ郷土文化資料館

東京都墨田区向島2-3-5

都営浅草線：本所吾妻橋駅から徒歩8分

TEL 03(5619)7034 FAX 03(3625)3431

すみだ
郷土文化資料館
ホームページ



すみだ
郷土文化資料館
SUMIDA
HERITAGE
MUSEUM



企画展

護国寺五百羅漢図展

文京区の護国寺に所蔵されている五百羅漢図30幅は、令和6年に区内弘福寺の五百羅漢図6幅とともに、東京都指定有形文化財（絵画）に指定されました。

この五百羅漢図は、^{ちようけいげんみよう}兆溪元明によって延宝5年（1677）に制作されたもので、制作からすでに350年近くが経過しています。それほど時間が経過しているにも関わらず、画絹（紙ではなく絹に描かれていること）や彩色の状態は極めて良いと評価されています。

兆溪元明（1636?～1734）は、黄檗宗の画僧（絵師であり、僧でもあること）でした。黄檗宗は、明の黄檗山萬福寺の僧隠元（隆琦禅師）が承応3年（1654）に来日して伝えた、当時大流行となった禅の一派でした。

兆溪は長崎に赴いた折に、時の長崎鎮台（長崎奉行と考えられています）と懇意になり、至徳3年（1386）

制作で京都東福寺に収められていた吉山明兆^{きつさんみょうちよう}（1352～1431）筆の五百羅漢図（国宝）を写すことを切望し、中国の画絹50幅を贈られ、模写したといわれます。この五百羅漢図は弘福寺に納められた後に護国寺の什物となりました（現在弘福寺6幅）。

江戸時代の五百羅漢図としては現存最古期の作品であるだけでなく、東福寺明兆作品という古典を元としながらも、黄檗絵画や明様式を写した彫像に見られる鮮やかな色彩と精緻な文様の描写をあわせもつ点に大きな特徴と意義があるとされています。

今回の展示では、護国寺に所蔵されている五百羅漢図30幅のうち、10幅を前期・後期に分けて展示します。また、残りの20幅はデジタル画像で作成したほぼ実物大のタペストリーを前期・後期で展示します。

講演会

- 10月18日（日）14：00～15：30
「東京都指定文化財「絹本着色五百羅漢図 兆溪元明筆」護国寺本公開に至るまで」
墨田区文化財保護指導員 川本恭子氏
- 10月25日（日）10：30～12：00
「五百羅漢図の受容と展開」
東京国立博物館展示企画グループ海外展チームリーダー／
絵画班 高橋真作氏

会場：すみだ郷土文化資料館 5階研修室／
先着順。10月1日より電話にてお申し込みください。



- 都営浅草線「本所吾妻橋」駅下車 徒歩8分
- 東武線「とうきょうスカイツリー」駅下車 徒歩7分
- 都営バス「言問橋」停留所下車 徒歩2分
・ 草39：金町駅～浅草寿町
・ 業10：新橋～とうきょうスカイツリー駅
・ 上26：亀戸駅～上野公園
- 都営バス「本所吾妻橋」停留所下車 徒歩8分
・ 都08：錦糸町駅～日暮里駅
・ 門33：豊海水産埠頭～亀戸駅
・ 上23：平井駅～上野松坂屋

すみだ郷土文化資料館

〒131-0033 東京都墨田区向島 2-3-5

TEL 03(5619) 7034 / FAX 03(3625) 3431



すみだ五彩の芸術祭
SUMIDA ART FESTIVAL

東京国立博物館 開創700年記念 特別展「大徳寺 本朝無双之禅苑」
10月14日(水)～12月6日(日)

五百羅漢図（大徳寺本、南宋時代の淳熙5年～15年〈1178～1188〉に寧波周辺で制作された）が、前期・後期8幅ずつ展示されます。